

開発調査課では、令和7年度より、北海道の「産業」を深く掘り下げ、局内への情報発信を目的とした調査レポート『Research』の作成を開始しました。本レポートでは、公表資料の整理に加え、事業者等へのヒアリング（聞き取り）調査の結果を踏まえ、北海道における産業の現状について整理しています。その中から、「北海道のウイスキー産業」及び「北海道の宇宙産業」に関する調査結果をとりまとめましたので、その概要を紹介します。

地域を醸す蒸留酒、ウイスキーとジンが拓く北海道の未来

調査概要

◇調査手法

道内の蒸留所等にヒアリングを行い、立地場所選定理由、地域への影響、ウイスキー・ジン産業の発展可能性・課題等を把握。

◇調査期間・ヒアリング先

道内3社のウイスキーやジンの蒸留所へのヒアリングを実施。

調査結果

北海道は、原材料のトウモロコシや大麦、樽材となるミズナラ、香味形成のピートを手に入りやすいことに加え、ウイスキーの名産地であるスコットランドに類似した冷涼な気候を有していることが強みとなっている。

	原材料、製造設備等	留意点
必須条件	水	・良質な水は製品の個性や付加価値を高める要素
	主体となる原料 スコッチウイスキー：大麦(特にモルト) アメリカンウイスキー：トウモロコシ ※いずれも製造工程上、大麦(麦芽)を使用	・大麦は生産者の確保が必要 ・道内ではトウモロコシは飼料用にも生産されており、ウイスキーの原料用に加工も可能なため、入手は比較的容易
	樽	・これまでは製樽メーカーは宮崎県の1社に限定されていたが、最近では道内にも製樽メーカーが新設
	醸造・蒸留設備	・道内に製造業者がないため、道外からの調達が必要 ・ただし、既存の酒精工場の機械の活用が可能
付加的条件	ピート(泥炭)	・麦芽乾燥工程において、スコッチウイスキー特有のスモーキーな香味形成に寄与
	気候	・北海道の寒暖差が大きい冷涼な気候は、スコットランドに似た環境としてブランド価値を形成 ・インドや台湾など、温暖な気候の地域でも製造

宇宙への扉を開く。北海道と新産業の現状

調査概要

◇調査手法

道内外の宇宙関連企業等にヒアリングを行い、宇宙産業に参入する形態、行政機関に求められること、北海道に期待される事項等を把握。

◇調査期間・ヒアリング先

道外4社、道内1社の宇宙関連企業等へのヒアリングを実施。

調査結果

宇宙産業参入のきっかけ	<p>①既存事業からの参入(製造業・精密加工・電子機器など) もともと自動車、医療機器、金属加工、電子部品、航空産業などに従事していた企業が、自社の技術を宇宙向けに応用して参入するタイプ ⇒参入の要因としては、リーマンショック後の事業多角化の必要性や、大手企業からの受託要請などがあげられる。</p> <p>②大学発ベンチャー(研究成果の事業化) 大学の研究成果(推進系、リモートセンシング、人工衛星技術など)を基盤に研究者・学生が起業したスピンオフ企業</p>
ロケット製造の難しさ	<p>①少量生産、長期開発 宇宙ビジネスは少量生産・長期開発が前提であり、量産型の事業モデルを基盤とする日本企業にとっては参入障壁が高い。また、試作納品後、実験開始までの3～5年にわたり収益が発生しない期間(谷間期間)が生じるため、宇宙事業を単独で運営するにはリスクが大きく、他事業との組み合わせによる収益補完が必要</p> <p>②認証規格の必要性(国内・国外) 宇宙関連産業へ参入する際、国内では主要な航空宇宙企業や行政機関、JAXAとの取引においてJIS Q 9100などの認証取得が必要(スタートアップ企業との取引では運用が比較的緩やかな場合も多い)。海外市場を視野に入れる場合は、国際規格への適合が必須</p>
行政機関に期待すること	<p>①ソフト面も含む総合的な支援の必要性 技術面の支援に加え、情報収集、企業マッチング等の“ソフト面”も含めた幅広いサポート</p> <p>②中長期を見据えた補助金制度の整備 設備導入時の一時的な補助だけでなく、試作から実装までを継続的に支援する、期間の長い補助制度 ※行政支援に依存せず、企業自ら主体的に行動する姿勢が不可欠との意見が多く聞かれた。</p>
北海道の宇宙産業に期待すること	<p>①スペースポート(射場)の早急な整備と将来的な発展 北海道の最大の強みである広大な土地を活かした射場の早急な整備と、それに伴うロケット打上げ回数の増加を期待</p>